

poco ZEFIRO

主のご降誕おめでとうございます



私の家族への クリスマスプレゼント

京丹ブロック担当司祭

モンテロ・ガルシア・ホルヘ神父



神は私たちの人生の中に常に存在し、喜びの時も困難な時も、常に私たちに寄り添ってくださいます。

私個人としては、神が私の人生を通して常に私に寄り添い、共に歩んでくださったことを証しています。

この機会に、私が今年の休暇中にメキシコで経験したこと、そしてその経験を通してクリスマスについて話したいと思います。

宣教司祭として、国外にいたので、家族に困難な状況があるとき、私はいつも家族から離れてきました。

両親が病気になったり、問題や困難な状況を経験する時、私は両親から離れているので、ほとんど何もできず、ただ両親のために祈るだけです。

時々それが少し悲しくなります。

家族が病気になったときや困難なときに、付き添いたいと思っていますが、遠方ではそれが難しいからです。ですから、私ができる唯一のことは、

彼らのために祈り、遠くからできる限り助けようとすることです。

今年特別な年でした。メキシコでの休暇のせいではなく、家族と共有し、経験したことのおかげです。

まず、メキシコに到着した翌週に、妹の結婚式を祝うことができました。このような特別な瞬間を家族と共有できたことは、大きな喜びと幸せの瞬間でした。面識のなかった義弟にも会うことができ、良い人で、妹の面倒

をよく見てくれると思いい、気持ちが落ち着きました。

しかし、最初の奇跡はすでに起こっていました。

それは私の妹が妊娠したということでした。医師たちは私の妹と義理の弟に、赤ちゃんを産むことは、決してできないだろうと告げました。

しかし、彼らは、神の御心が行われるように神に祈りました。そしてしばらくして、私の妹は妊娠しました。11月出産予定だったが、2カ月繰り上げられ、子癇前症のせいで、9月に帝王切開で生まれました。妹が緊急入院し、妹と赤ちゃんの命が危険にさらされました。

赤ちゃんが早産だったので1ヶ月入院しました。そのため、私と家族は、1か月間毎日、入院中の赤ちゃんのお見舞いに行きました。家族と一緒にいて、同時にメキシコで司祭としての義務を果たしていたので、少し大変な時期でした。

1か月後、赤ちゃんは退院し、家で私たちと一緒にいることができました。私がメキシコにいた最後の2週間は、家族全員で一緒に過ごすことができ、教会で姪の洗礼を祝うこともできました。



妹さんの結婚式

そして、姪の洗礼式の時、私はミサを捧げる司祭であり、叔父でもあり、姪の洗礼の代親でもありました。困難な瞬間があった後、私たちは信仰の喜びを共に祝うことができ、姪の洗礼式を通して、いつも私たちと共にいてくださり、祝福として、姪を送ってくださいました。

家族と一緒にこの時間を過ごせたことは、私にとって祝福でした。病気や困難の瞬間、そして喜びの瞬間にも、家族と一緒にいられたからです。ほとんどいつも家族と離れていたため、今回家族と一緒にいる機会を得られたのは、私にとってのクリスマスプレゼントでした。

神はいつも私たちとともにいて、常に私たちとともに歩んできました。そして、それらの困難な瞬間にも、神は私の家族と私とともに、おられました。

皆さんが、私の家族と同じように、日常生活の中で神の臨在を感じ、発見できるように祈っています。神は、私たちが出会う日常の出来事や人々を通して、私たちの日常生活の中に存在します。

神は、私たちを愛し、私たちに最善を尽くしたいと願っているので、毎日私たちに会いに来ます。それがクリスマスです。それは、私たちの心を神に開き、家や家族の扉を、神に開くことです。

今年が私たちの人生に、本当に（主が）生まれるように、神に心を開いてみましょう。

メリークリスマス！
新年あけまして
おめでとうございます



ホルへ神父様のご家族と。姪御さんの洗礼式を終え、とびぎり小さく、かわいい赤ちゃんを、しっかりと抱きしめて！